

ひさお 議員
石居 尚郎
(公明党)



- ◇防災・減災対策の早期対応を
- ◇スポーツを通じた観光振興推進を
- ◇特別支援教育の推進を

防災・減災対策の早期対応を

質問 地域防災計画、BCP（事業継続計画）、企業BCP推進の行程を示せ。

市長 地域防災計画は平成25年度に改定版を策定予定。BCPは平成24年度中に策定する。企業BCP推進の支援をし、連携をさらに深めていく。

質問 避難所運営ゲーム（HUG）の普及を。

市長 避難所を運営していく実践研修として、6月の防災リーダー講習会に取り入れる。

質問 防災教育を進めていく考えは。

教育長 防災教育計画作成を指示している。避難訓練等も体験的、実践的な訓練とする。国の実践的防災教育総合支援事業の内容を踏まえた防災教育を進めていく。

スポーツを通じた観光振興の推進を

質問 スポーツツーリズム、スポーツコミッションへの認識と導入の考えは。

教育長 イベントやレジャーを観光資源として生かしていく効果等を十分認識している。



▲羽村一中の特別支援教室開級式

質問 昨年12月末に羽村市内で開催された日本初の「24時間インドアウルトラマラソン」を今後も支援していく考えは。

教育長 この大会が回を重ね、羽村に定着するよう引き続き、教育委員会としても、後援していく。

特別支援教育の推進を

質問 特別支援教育の充実は何個別対応

応の充実であり、人的配置が重要な要素となる。人材の確保と人的配置は。教育長 今後も、個に応じた組織的な対応の充実を図り、資質向上に努め、個別対応の充実を図っていく。

質問 ユニバーサルデザイン授業の改善、環境改善を急ぐべきでは。

教育長 全ての学校において、発達障害等のある児童・生徒を含め、多様なニーズに対応した教育を進めていく。

*HUG（ハグ）：迅速な対応が求められる避難所運営を、体育館や校庭などに見立てた平面図とカードを使って模擬体験する、静岡県が開発したゲーム。

なかじま まさる 議員
中嶋 勝
(公明党)



- ◇心の豊かさや幸福度について
- ◇雇用対策について
- ◇財政対策について

心の豊かさや幸福度について

質問 プータンの国民総幸福量が話題になっているが、羽村市でも市民の幸福度という考え方を取り入れてはどうか。

市長は、プータン王国の国民総幸福量についてどう思うか。

市長 我が国とは条件は違うが、物が豊かであることが必ずしも幸せではないという、そうした国民総幸福量という考え方には、学ぶところがある。

質問 幸福度の研究をして市政運営に反映させてはどうか。

市長 今後の研究課題としていく。

雇用対策について

質問 ハローワーク、東京しごとセンター、商工会等の関係機関との連携をどう進めるか。

市長 対象を限定した就職面接会や多様な内容の就職支援セミナーを開催するなど、雇用対策の充実に向けていく。

質問 国・都の雇用対策事業の活用は。

市長 震災等緊急雇用対応事業を活用していく。

質問 街路灯電気料金の一括払い契約

市長 削減効果が期待できるので、切り替えに向け、継続して検討していく。

質問 街路灯電気料金の一括払い契約

市長 削減効果が期待できるので、切り替えに向け、継続して検討していく。

質問 街路灯電気料金の一括払い契約

市長 削減効果が期待できるので、切り替えに向け、継続して検討していく。

質問 街路灯電気料金の一括払い契約

市長 削減効果が期待できるので、切り替えに向け、継続して検討していく。

質問 街路灯電気料金の一括払い契約

市長 削減効果が期待できるので、切り替えに向け、継続して検討していく。



▲青梅線沿線5市3町1村合同企業説明会の様子

質問 企業と求職者の情報のズレをなくすマッチングの充実を望むが。

市長 企業および関係機関との連携を図り、就職相談等を通じて求職者ニーズに合った情報が得られる場の紹介や情報の提供を行っていく。

財政対策について

質問 羽村市版事業仕分けの結果、ス

市長 新たな奨学金制度や高齢者福

約で料金の削減ができないか。

市長 一定の経費削減が見込めるので平成24年度から導入する。

質問 ムダに点灯している街路灯があるが、点灯・消灯の見直しを。

市長 点検パトロールで適正な維持管理に努めていく。

質問 ムダに点灯している街路灯があるが、点灯・消灯の見直しを。

市長 点検パトロールで適正な維持管理に努めていく。

質問 ムダに点灯している街路灯があるが、点灯・消灯の見直しを。

市長 点検パトロールで適正な維持管理に努めていく。

とみなが のりまさ 議員
富永 訓正
(公明党)



- ◇放課後子ども教室と児童クラブ
- ◇買い物に不便な方への環境の充実
- ◇動物との共生について

放課後子ども教室と児童クラブ

質問 放課後子ども教室の、東小以外での開室計画を聞く。

市長 平成24年度は羽村西小と栄小学校。平成26年度までに全校で開室予定。

質問 児童クラブ利用者の意見・感想・要望等は。

市長 開所時間延長、4年生まで対象拡大、外遊び機会の拡大などがある。

質問 最低限の人員配置で厳しい運営。余裕を持った人員配置が必要では。

市長 23人以下の場合でも、原則2人の指導員を配置している。適切である

と考える。

質問 学校内の空き教室等を活用した児童クラブにしていく考えは。

市長 学校敷地外に施設を確保することを基本とし、考え方に変わりはない。

買い物に不便を感じている方への

質問 買い物環境の充実について

市長 現状を十分に把握し、市と商工会や地域が連携し、身近な地域で買い物しやすい環境づくりに取り組む。

質問 NPO法人や小売店、商店会等に対する支援を、どのように行うか。

動物との共生について

質問 飼い主のいない猫について、市はどのように考えているか。

市長 無責任な餌やりを控え、数を増やさないことが重要。対策を検討する。

質問 飼い主のいない猫の去勢・不妊手術を行う市民に費用の助成をしては。

市長 先進事例なども把握する中で、去勢・不妊手術の助成を研究したい。

質問 犬は人への癒し効果も大きく、我が子のように可愛がる光景をよく目に

市長 生活環境への影響などが懸念されることから、今後の研究課題とする。



▲愛犬との散歩

にしかわ みさほ
西川 美佐保 議員
(公明党)



- ◇まちの活性化と絆を深める対策
- ◇インフルエンザ予防と医療費削減
- ◇自転車対策について

まちの活性化と絆を深めるまちづくり
 質問 観光協会が開発されたお菓子やB級グルメ等での新商品を多くのお店で取り扱い、インターネットを活用し効果的に売り込んでいます。

市長 羽村市観光協会が開発した新名産品「かるたせんべい」が昨年末から販売された。販売にあたり新聞各紙に取り上げられたが、さらなるPRと効果的な売込みを期待している。



▲新名産品の「かるたせんべい」

質問 2月に小作駅周辺で開催された活性化事業「おさくでナイト(街コン)」の反響と、今後の生かし方は。

市長 開催当日は、八百数十人の方々と28店舗の参加があり、店舗は新規顧客獲得の機会につながった。今回の事業の結果や成果を検証し、商店会等の活性化事業の参考にしたい。

質問 高齢者の方と乳幼児を抱える親子のふれ合い事業を小地域ネットワークや老人クラブ連合会事業として町内会館を活用し実施してはどうか。

市長 ふれ合い事業は社会貢献活動として大変意義があることと考え、老人クラブ連合会等に働きかけていきたい。

質問 避難所運営における自主防災組織と災害時要援護者との連携は。

市長 平成24年度から本人の承諾が得られた要援護者情報の伝達訓練を行うなど対策の充実を図る。

質問 インフルエンザ予防と医療費削減を

質問 口腔ケア等インフルエンザの発症率が激減すると言われる対策に

取り組んではどうか。

市長 口腔ケアは健康保持に重要なもので大切さをPRしていく。

質問 後発医薬品に切り替えた場合の「差額通知」の取り組みと効果は。

市長 薬剤費が3〜5割程度軽減され、被保険者の窓口負担の軽減と市の保険給付費の削減が図られる。発送開始は

7月頃を予定している。

質問 自転車対策について

質問 歩道のある車道の左端に自転車が安全に通れる道を明示してはどうか。

市長 福生警察では、自転車レーン等設置が可能か、現在調査検討している。

はしもと ひろたか
橋本 弘山 議員
(新政会市民クラブ)



- ◇スポーツセンター休館中の対応は
- ◇親しみやすい広報はむらについて
- ◇平成24年度予算編成について

スポーツセンター休館中の対応について

質問 利用者にはいつ、どのような説明をされるのか。

市長 スポーツセンターの改修に伴う休館案内や、代替施設の情報などを3月下旬にお知らせする予定である。

質問 約半年間の休館中の対策は。

市長 スポーツセンター利用者の利便を図るため工事期間を極力短縮し、7か月間とした。また、2階トレーニングルーム等については平成25年1月から利用できるよう努めていく。他の市内公共施設や民間施設、近隣の市外施設についても、空いているときは利用が可能となるよう調整を行っていく。

さらに親しみやすい

「広報はむら」について

質問 どのくらいの市民が目を通していか把握しているか。

市長 羽村市の情報化に関するアンケートを実施した結果、行政情報の入



▲スポーツセンター

手方法を「広報はむら」と回答した人の割合は、全体の94・8%であった。

質問 今後の工夫や配慮、取り組みは。

市長 市民と行政を結ぶ身近な情報媒体として大変重要なものである。読みやすさ、分かりやすさを心掛け、

今後はさらに行政施策や各種制度などに関する解説や、子ども向けページの充実などを検討し、小中学生にも興味

味や関心が持てるような紙面づくりに取り組む、いつその内容充実に努めていく。

平成24年度

羽村市予算編成について

質問 特に留意した点と、この予算の特徴は何か。

市長 平成24年度は「第五次羽村市長総合計画」の初年度であることから、この計画に掲げた事業の優先的な予算化を図った。また、災害対策、省エネルギーや地球温暖化対策、少子高齢化施策などを積極的に予算措置をした。

質問 職員の配置は考えていない。

市長 住民による運営委員会に委託しており、職員の配置は考えていない。

質問 市の生活保護受給者のうち「無料低額宿泊所」で暮らす人数は何人か。

市長 2月1日現在、15人である。

質問 そうした施設は、利用料が高く、本人の手元にはほとんどお金が残らない場合が多いと聞くが、実態は。

市長 月額約2万円が手元に残る。質問 市内にアパートを借りて、自立に向けた支援をすることが必要では。

市長 住まいを失うなどの緊急保護によるケースでは、入所させている。

質問 教員の移動は、徒歩か自転車との

ことだが、非効率では。

質問 教員の移動は、徒歩か自転車とのことだが、非効率では。



▲ゆとりぎの交流ひろば

すずき たくや
鈴木 拓也 議員
(日本共産党)



- ◇生涯学習が豊かに広がる羽村に
- ◇貧困ビジネスと羽村市
- ◇どうなる小中一貫教育

生涯学習が豊かに広がる羽村に

質問 サークル活動が豊かに発展するために、市はどういう役割を果たしているか。専門職は配置しているか。

教育長 ゆとりぎでは活動の場の提供、社会教育団体には、使用料の減免を行っている。また、各種講座の後に、サークル化を支援している。専門職の配置は検討する。

質問 1月にゆとりぎで行われたロックバンド・ライブには多くの若者が参加していた。こうした若者をターゲットにした企画をもっと行う

べきでは。

教育長 若者をターゲットにした企画や講座を検討していく。

質問 ゆとりぎ中央にある円形の交流ひろばに屋根を設置することが必要では。

教育長 発表のための外部空間と位置づけており、考えていない。

質問 地域会館の利用率はどうか。

市長 平成22年度の平均利用率は63・9%で、最も低いところは26・8%だった。

質問 少なくとも中学校校区に一つの